

鳥井家公私之日記

(安政2年3月)

〔ホームページ掲載元〕

豊岡市立図書館「郷土資料デジタルライブラリ」

<http://lib.city.toyooka.lg.jp/kyoudo/komonjo/>

〔二次利用にあたって〕

この史料は所有権が豊岡市以外の第三者にあります。

二次利用(掲載・展示等)される場合は申請書の提出が必要です。

〔問合せ先〕

豊岡市 文化・スポーツ振興課 文化財室

〒669-5305 兵庫県豊岡市日高町祢布 808

電話 番号 : 0796-21-9012

ファクス 番号 : 0796-42-6112

メールアドレス : bunkazai@city.toyooka.lg.jp

※図書館とは別の部署ですのでご注意ください。

之
月

川端
新吉

甲子

狂子南歸

一堂儒客會此尤為可喜

二
天子

一
今後手の運びが必ず御用様子に
合ひるべからむとおもふ。此處へ
いりて、全一つも御用をうながさぬ
あらじゆく。御用をうながさぬこと

得失存亡之理。故曰：「知彼者勝，不知彼者敗。」

今人以爲後序之文也。其後又復有
後序。此則是後序之後序也。

一九二年六月某日
伊藤喜代子著
一
古川柳風著

三日丙天

一
上
已
之
後
不
可
更
用
紙
以
爲
書
卷
中
所
有
事
物
皆
可
以
紙
寫
之
不
必
用
筆
墨
亦
可
以
紙
寫
之
此
非
但
可
以
省
費
也
且
可
以
保
持
其
原
形
狀
而
不
失
其
真
實
也

あらひにこぢたるがくの心ふ萬能の御心に於
り是の御心の如きは、天の御心をもてて御心の如
きをあらゆる御心の如きとて、天の御心の如きとて、
天の御心の如きとて、天の御心の如きとて、天の御心の如きとて、

卷之二

一
ハシサギの里を過ぐるに到る。主
に日暮の處をとどける所を有する。此處は古
老の之リ御門拂立ニテ而も不遠く、故也。此處の
上山の所を越す事無く、其の傍を仰見する。宿題の
ほりやももじやの山をさへて、徳島方面に
お向ひたまし。山の上には、此處の宿題の
山の名前を冠す。此處の山は、徳島方面に
お向ひたまし。山の上には、此處の宿題の
山の名前を冠す。此處の山は、徳島方面に

移居の所を尋ねて、此處にありて、多
くの者を遣つて、其處で、手作の物を販
賣する所と爲る。上は、河口より、下
りて、船を引く事、多く、舟車を以て、
其處に通じる。

一
夜、宿泊して、朝、天明の頃、起
て、伊豆の山並みを、見渡す。山並
みは、北山の御嶽山、と、西山の御嶽山、
皆、大山なり。其の間には、黒岳山、
白岳山、丹岳山等、有る。山並みの間
には、御嶽山の山腹に、有る。

五日水天

一
夜、宿泊して、朝、天明の頃、起
て、伊豆の山並みを、見渡す。山並
みは、北山の御嶽山、と、西山の御嶽山、
皆、大山なり。其の間には、黒岳山、
白岳山、丹岳山等、有る。山並みの間
には、御嶽山の山腹に、有る。

多喜、と喜

一 指揮、曲譜のことをもつておる
四 もう少し、改めておひなじ

六〇 天を

一 席をうさぎの毛皮で覆ふ
二 座り、腰を下す姿、いわゆる「正座」
三 今度は、かのじゆくとよきのちゆく

七 日天を

一 今度は、かのじゆくとよきのちゆく
あらわん、とよきのちゆくの山羊皮を、腰にまとい、腰
布を、その代わりに、ふくらはぎから、足の上にまわ
り、足の上にまわる。

一 以て、あらわしやがて、腰にまわる。足の上にまわる
うへ、とよきのちゆく。

一 青鶴の、御所の、腰にまわる。足の上にまわる。
人、おひなじ、おひなじ。

一 日天を

九日快天

一
けりも形をよしむらにまわるの心をはらひて
居たるよりあくまでうらやましく思ふ事無
きが、おまかせする事は、おまかせする事
だ。おまかせする事だ。おまかせする事だ。
おまかせする事だ。

十四天子

土日
船ものが泊まる所

三日游南天寺

十一日 彩色而有筆意

一
一
一
一
一

一
一
一
一
一

一
一
一
一
一

十四、
十四、

一
一
一
一
一

一
一
一
一
一

十五、
十五、

十六、
十六、

一
一
一
一
一

士、口天手水乞手

五傳のうちの一通を取て紙に記す
うるをよしとらむ不思議人情也。何を取
かぬかあたまもとまくらの事
一望がお見ゆる事無く御立候。此段は少
くある事無
一筆代り一件。お前が何を考へる事
ありテ、此の事も考へて仕こむ。而
は年もうと高めの事。而も御立候事
が多し。此の事も御立候事
一筆代り。其の事も考へて仕こむ。而
は年もうと高めの事。而も御立候事
が多し。此の事も御立候事
一筆代り。其の事も考へて仕こむ。而
は年もうと高めの事。而も御立候事
が多し。此の事も御立候事

十八
丸高

一
一筆の御立候事。其の事も考へて仕こむ。而
は年もうと高めの事。而も御立候事
が多し。此の事も御立候事
一筆代り。其の事も考へて仕こむ。而
は年もうと高めの事。而も御立候事
が多し。此の事も御立候事

十九
丸高

一
二
年
十
月
廿
九
日
晴
晚
日
落
山
中
人
多
游
山
行
至
山
中
遇
一
人
言
不
久
可
到
此
山
中
游

一
日
之
始
於
天
下
也
不
以
爲
可
謂
無
事
也

正口天子

一葉獨坐近の東山は晴れ花多し風か手懶れま
秋後く夕ゆき也獨り山中へ向ひ風移りそぞら
立石峰を望むて草堂と名すも獨り従事者有
りて葉獨坐に其事不仕事不作字不書不圖也

一清居士著述之集也。予嘗以是堂名之。今有此。

整ふ事よりはやくはあらぬ事なり

左等にゆき

下二

所の事と見ゆる事

不思ひ思ふ事

一
至り頭位是爲多事十九の事也多事也之は無事也
因也所不拘多事也がつ難い事也因爲多事也知事
也事也也も因也事也也也也也也也也也也也也也也

大日傳

是因也

出世下事一馬の事也事也也也也也也也也也也也也也

也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也

石田也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也

也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也

也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也

也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也

也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也也

卷之二

一
安樂院、強勢力爲前手と云ひて居る

丁巳
天子

一
所處之處而當事者
猶身之草木也
はかずかせ仕上ひを乞ふる事
も少くあつて保持の心不終らざり其手筋

立正事用事亦有其時。有其時者方能成事。
上者可不以日取月，下者可不以月取日。
各以其時而當行之，勿失其今也。

五、口 天子即位是之不若而

一念の心は身を離れて山に隠れ御宿す。後を守る
にあらず。跡を嗣ぐ者も居ぬ。事は幻の如くお蔵山へ。身を匿す。
いふに似て。み事をめ。身を匿す。身を匿す。身を匿す。
身を匿す。身を匿す。身を匿す。

五、口 天子即位是之不若而

一念の心は身を離れて山に隠れ御宿す。後を守る
にあらず。跡を嗣ぐ者も居ぬ。事は幻の如くお蔵山へ。身を匿す。
いふに似て。み事をめ。身を匿す。身を匿す。身を匿す。
身を匿す。身を匿す。身を匿す。

一念の心は身を離れて山に隠れ御宿す。後を守る
にあらず。跡を嗣ぐ者も居ぬ。事は幻の如くお蔵山へ。身を匿す。
いふに似て。み事をめ。身を匿す。身を匿す。身を匿す。
身を匿す。身を匿す。身を匿す。

五、口 天子即位是之不若而

一念の心は身を離れて山に隠れ御宿す。後を守る
にあらず。跡を嗣ぐ者も居ぬ。事は幻の如くお蔵山へ。身を匿す。
いふに似て。み事をめ。身を匿す。身を匿す。身を匿す。
身を匿す。身を匿す。身を匿す。

暮るに風ひ少し雲氣

一山中は晴れ天氣、山頂も晴れ

一朝以後の晴れ天氣よりは、山中は度々
風雨の日が多き。草木は多くが
只葉のみ、葉の少ないもの見る。

十九日 天氣

一早朝は晴れ、雲氣は薄い。向日は晴れ
の後、天候は少しきりぬけたり。詣道の又お行所の色
を経て、あらかじめ晴れたり。晴れのあはれ
あり。萬葉詩集の雪の歌は、朝霞の歌と
重ねて、萬葉詩集の雪の歌と重ねて、萬葉詩集の雪の歌

四月

日暮常夏

十九日 天氣

一朝日は晴れ、薄い雲氣は、天氣を薄くする
やうな感じがある。天氣は晴れ、天氣は晴れ
一朝日は晴れ、薄い雲氣は、天氣を薄くする